

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析について

令和7年度全国学力・学習状況調査における本校の結果分析についてお知らせいたします。職員一同で情報を共有し、本校の教育活動にいかしていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

なお、調査の結果は児童の学力や教育活動の全てを計るものではありません。調査の結果は、児童の学力や学校における教育活動の一面であることを申し添えます。

1. 教科に関する調査より

(1) 国語

- 「思考力、判断力、表現力等 A話すこと・聞くこと」に関わる問題を得意にしている。
- 漢字の定着が不十分である。また、記述式の正答率も低かった。
- 解答時間が足りなかった等の理由により、無解答率が高かった。

(2) 国語の補足説明

- ・「思考力、判断力、表現力等 A話すこと・聞くこと」に関わる問題は、千葉県や全国の平均を大きく上回った。これは、話し方や聞き方のルールを全校で定めていることや、話し合い・伝え合い活動が十分に行えていることが大きな理由として考えられる。そのため、今後も積極的にこれらの活動を取り入れていく必要がある。
- ・全部で2問の「記述式」の問題は、どちらの問題とも正答率が低くなかった。問題の趣旨と照らし合わせると、「目的や意図に応じて自分の考えが伝わるような書き方の工夫をすること」や「目的に応じ、文や図を結び付けて書くこと」を苦手にしていることが分かる。そのため、国語の学習では「自分の考えや感想を読み手に分かりやすく伝えて書く」ことや「文章や図表から自分の考えをまとめる」という経験を多く重ね、力をつけていけるようにしたい。

(3) 算数

- 「C測定」と「C変化と関係」に関わる問題を得意にしている。また、記述式の正答率も高かった。
- 「B図形」に関わる問題を苦手にしている。
- 解答時間が足りなかった、問題の解法が分からなかった等の理由により、無解答率が高かった。

(4) 算数の補足説明

- ・「C測定」と「C変化と関係」に関わる問題は、千葉県や全国の平均を大きく上回った。これは、「伴って変わる二つの数量の関係に着目する問題」や「割合に関する問題」に対する理解が深まっていることが大きな理由として考えられる。また、記述式の正答率が高かったのは、日常の授業の中で、どのように解くかを考えたり説明したりする際、式や図、言葉を関連付けて解く習慣が身に付いた成果だと考えられる。
- ・昨年度に続き、「B図形」に関わる問題は、千葉県や全国の平均を下回った。図形領域はその問題の性質上、計算問題などとは算数の見方・考え方が少し違い、学校での学習や家庭での学習で継続して触れることが難しいということも理由として考えられる。

(5) 理科

- 全体的に、学習内容がよく定着している。また、児童質問調査の結果より、理科に対する意欲も高かった。
- 「B区分[生命]を柱とする領域」に関わる問題を苦手にしている。また、記述式の正答率も低かった。

(6) 理科の補足説明

- ・学習内容が定着して意欲も高いため、今後もこの状況を維持できるように指導を継続していく。
- ・「B区分[生命]を柱とする領域」に関わる問題では、基本的な知識や技能が定着していないことが分か

- った。これより、授業中に既習事項の復習や確認をする時間を取り入れていく必要がある。
- ・「記述式」の問題では、実験結果から新たに学習問題を考えて書く設問で、正答率が低くなっていた。これを踏まえ、授業では、実験結果を考察してまとめるだけでなく、考察から生じた疑問点を次の学習問題に生かす授業づくりをしていく必要がある。

2. 生活習慣や学習環境等に関する児童質問調査より

(1) 傾向の分析

- 規則正しい生活を送っており、よく読書をしている児童が多い傾向がある。
- 総合的な学習の時間では意欲的に取り組み、道徳の時間では自分の考えを深めることができている児童が多い傾向がある。
- 学校全体として、ICT機器の使用頻度が低い。

(2) 傾向の分析の補足説明

- ・「毎日の就寝時刻に関する質問」や「毎日の起床時刻に関する質問」、「1日当たりの読書時間に関する質問」への回答結果より、規則正しい生活を送り、よく読書をしている児童が多いことが分かった。
- ・「総合的な学習の時間での学習活動に関する質問」や「道徳の時間でのグループ活動に関する質問」への回答結果より、総合的な学習の時間や道徳の時間では、意欲的に取り組んでいる児童が多いことが分かった。今後もこの結果を継続できるよう、取り組んでいきたい。
- ・児童質問調査全体を通じて、「PC・タブレット等のICT機器活用に関する質問」での回答状況では、千葉県や全国の平均と比べて低い数値を示す項目が多く見られた。今後は、学校全体としてICT機器を積極的に活用するのと同時に、ICT機器を「使うこと」だけを目的とせず、「授業のどの場面でどのように使うか」を意識しながら活用していくことが必要である。

3. 改善のための主な方策について（継続事項も含む）

学力向上のために

- ・低学年では朝学習の時間を設定し、読み・書き・計算の基礎基本の定着を図る。
- ・朝学習や東タイムを有意義に活用し、漢字の学習指導をしっかりと行う。また、小テストなどを有効活用する。
- ・全校で自主学習ノートの実施を推奨する。その際、学年で統一した学習の進め方の冊子を配付したり、主体的な学習ができている児童のノートを学年・学級掲示板で紹介したりすることで、より良い取組につなげる。
- ・国語の授業を中心に各教科で、「自分の考えや感想を読み手に分かりやすく伝えて書く」場面や「文章や図表から自分の考えをまとめる」という経験を多く積ませ、書く力の定着につなげる。
- ・今後も継続して、話しかけ・聞き方のルールを全校で定め、話し合い・伝え合い活動の充実を図る。その際、学習用端末を利用して、積極的に「ロイロノート」を活用する。
- ・今年度も例年と同様、図形領域を苦手にしている傾向が強く出ているため、今後も引き続き重点的に指導を継続していく。
- ・算数の問題をどのように解くか考えたり説明したりする際は、式や図、言葉と関連付けられるよう継続的に指導していく。
- ・算数で身に付けた「算数的な見方・考え方」をキーワード化する等して、「他教科の見方・考え方」にも生かしていく取組を継続して行う。
- ・理科の学習では、実験結果を考察し、単にまとめるだけではなく、考察から生じた疑問点を次の学習問題に生かす授業づくりをしていく。
- ・各教科において、学習問題やそれに対する予想、実験方法や考察、考え方やまとめを自分の言葉で書けるように指導をしていく。
- ・各教科において、基本的な知識や技能を習得させるため、既習事項の復習や確認をする時間を授業の中に取り入れていく。
- ・各教科において、ICT機器が有効活用できる場面を模索し、学力向上のためのツールとなるように取組を進める。
- ・e ライブラリを中心に、学習用端末を利用した課題を出し、意欲の向上や学習内容の定着、家庭学習の充実を図る。
- ・「ちばっ子チャレンジ 100」を活用し、授業時間だけでは定着に至らなかった内容を、朝学習の時間や家庭学習の時間に行う。
- ・4月の懇談会では、上記自主学習ノートの説明等と共に、家庭学習の重要性も伝える。

家庭や地域との連携を深めるために

- ・週プロ等で学習状況を伝える。その中で、学習用具の準備や予習、復習の大切さ、学習への取り組み方を保護者に伝えるようにする。
- ・本校ＨＰや安心安全メール等を通じて、家庭への連絡の充実化を図る。また、学校生活の様子も伝えていく。
- ・家庭学習の充実を図るために、県教育委員会ＨＰに掲載している「家庭学習のすすめ」サイトを参考にし、各学年が年度はじめの懇談会で、家庭学習の重要性や進め方について取り上げる。
- ・授業参観の実施や行事の公開を積極的に行い、家庭や地域の方に学校活動に対する理解を深めてもらう。
- ・ゲストティーチャーとして、地域人材の積極的な活用を行う。
- ・ＩＣＴ機器を活用して、あらゆる機会や場所で問題に取り組むことができる環境を整える。

4. 補足説明

「ちばっ子チャレンジ100」「家庭学習のすすめ」について

- ・千葉県のＨＰ内（<https://www.pref.chiba.lg.jp>）でキーワード検索をすると、簡単に閲覧することができます。